

[植栽環境に適応した街路樹の樹形管理方法の確立]

街路樹用低木類の評価（2年目）

長嶋大貴・福原修斗・佐藤澄仁

(緑化森林科)

【要 約】樹高生長が比較的緩慢であり、サツキなどと比べて横方向の生長が旺盛な、イヌツゲ「ヒレリー」、オタフクナンテン、コクチナシ、フイリヒメトベラは植栽樹の被覆、視距の確保、刈り込み労力の軽減の面から街路樹用低木として有望である。

【目 的】

都内の街路樹は視距の確保が課題になっているとともに、道路管理者からは樹高を低く管理できる低管理コストの樹種、さらには樹種の多様化が求められている。そこで、2019年から新しい街路樹用低木類の評価を行っているが、昨年度は定植1年目で株が十分に活着していない状態であり、樹種の生育特性が現れていない可能性があると考えられた。そのため、今年度も樹高および枝張の生長量を調査し、十分に活着した状態での生育を把握する。また、観賞性評価のために、病害虫の発生とそれが観賞性に与える影響を把握する。

【方 法】

2019年3月19日に、赤土を客土した圃場に、イヌツゲ「ゴールドエンジェム」外8樹種と、対照樹種としてサツキおよびツツジ「オオムラサキ」を株間60cmで各樹種10株ずつ定植した。2020年4月23日、7月15日、10月13日の計3回、生育調査として樹高および枝張を調査した。また、7月15日および10月23日に病害虫発生程度を調査した。施肥は4月16日に化成8号(N:P:K=8:8:8)を100g/m²施用した。除草は適宜行い、刈り込みは生長が十分でない樹種が複数みられたため実施しなかった。

【成果の概要】

1. イヌツゲ「ゴールドエンジェム、ヒレリー」、セイヨウツゲ「エレガントシマ」、セイヨウバクチノキ「オットライケン」はハマキムシの被害がみられたが、対照樹種のサツキ、ツツジ「オオムラサキ」のゲンバイムシ類と比べると観賞性に大きな影響は出ない程度であった(表1)。フイリヒメトベラにはカイガラムシ類の定着がみられた。
2. ヒメシャリンバイは他の樹種と比べると樹高生長が旺盛で、刈り込みなどの管理に労力が必要であると考えられる(図1)。イヌツゲ「ゴールドエンジェム」は、対照樹種と比較して生育が緩慢で、樹高、枝張ともに抑えられており、刈り込みの労力面では優れると考えられる(図1、2)。その一方、街路樹用低木として使用する場合、定植時の植栽間隔を狭くする必要があると考えられる。イヌツゲ「ヒレリー」、オタフクナンテン、コクチナシ、フイリヒメトベラは、樹高生長は緩慢であるが、対照樹種と比較すると横方向の生長が旺盛で、植栽樹の被覆および視距の確保の面で有望であると考えられる(図3)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 樹種ごとの観賞性の評価、刈り込み後の回復程度などの調査を行い、樹種特性や、利用場面における注意点をさらに明らかにする必要がある。
2. 刈り込みを含む管理作業の労力の比較など、管理面からの評価も必要である。

表1 供試樹種と病害虫発生程度

樹種	略称	病害虫による 観賞性低下程度 ^{a)}		主な病害虫
		7月15日	10月13日	
		イヌツゲ「ゴールデンジェム」	ゴールデンジェム	
イヌツゲ「ヒレリー」	ヒレリー	20	0	ハマキムシ類
オタフクナンテン	オタフクナンテン	0	0	
セイヨウツゲ「エレガントシマ」	エレガントシマ	20	8	ハマキムシ類
セイヨウバクチノキ「オットライケン」	オットライケン	18	0	ハマキムシ類
コクチナシ	コクチナシ	20	20	ミカンコナジラミ、すす病
ヒメシャリンバイ	ヒメシャリンバイ	0	0	
ピブルナム ハリアナム	ハリアナム	0	4	アブラムシ類
フィリヒメトベラ	フィリヒメトベラ	10	14	トベラキジラミ、イセリアカイガラムシ
サツキ	サツキ	28	0	グンバイムシ類
ツツジ「オオムラサキ」	オオムラサキ	40	0	グンバイムシ類

a) 病害虫による観賞性低下程度 = Σ (観賞性指数 × 指数毎株数) / (5 × 調査株数) × 100

観賞性指数：甚=4，中=3，軽=2，微=1，無=0

甚：観賞性が著しく低下，中：観賞性が大きく低下，軽：観賞性が少し低下，微：観賞性にほとんど影響なし，
無：観賞性に影響なし

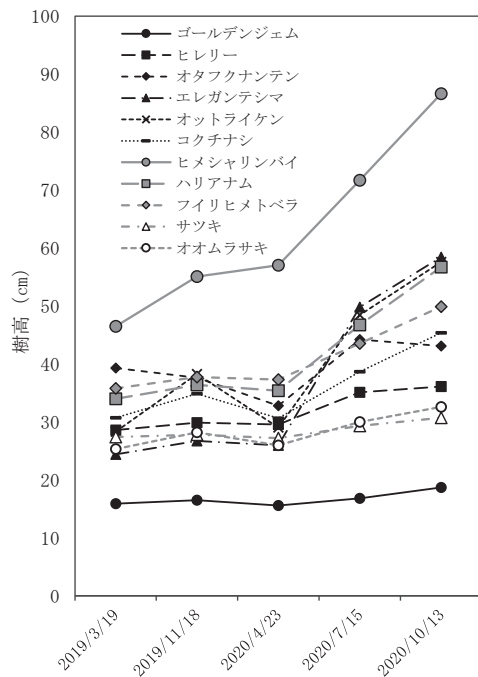


図1 樹高の推移

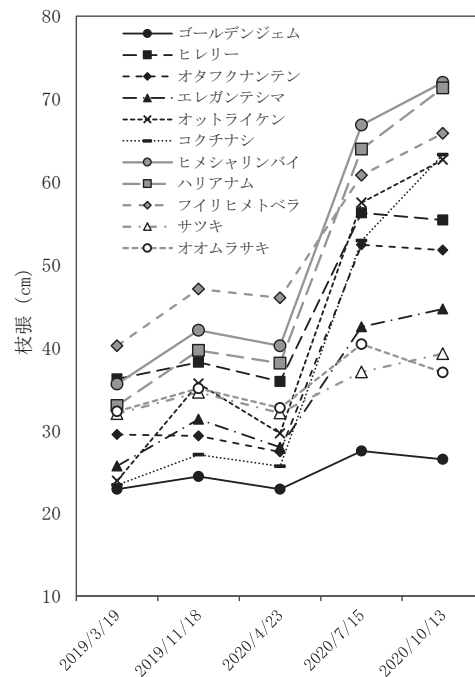


図2 枝張の推移

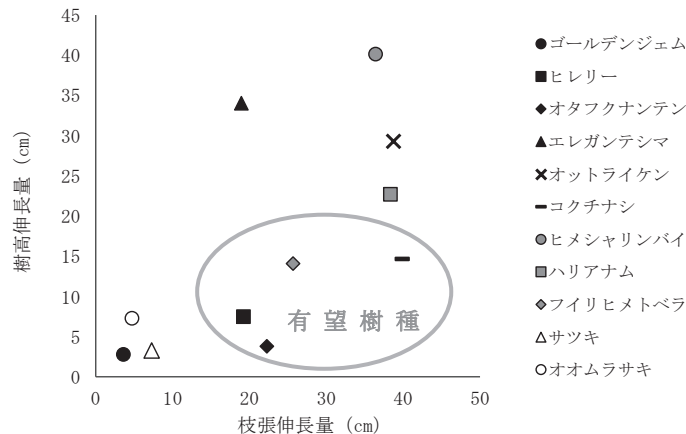


図3 樹高伸長量および枝張伸長量
(2019年3月19日～2020年10月13日)